

# ブラックロック・ジャパン株式会社

中山 恵



講演会を通して障がいについても様々な学びがありました

会社のイベントで日本聴導犬協会の講師の方をお招きして、協会の活動趣旨を伺い、デモンストレーションを近くで見ることができました。シェルターから救った犬たちを訓練し、ユーザーさんたちとつないでゆかれています活動。

犬好きで、盲導犬のように「働く犬」たちがいることは認識していても、「聴導犬って何だろう」と疑問を感じていました。

「百聞は一見に如かず」。実際にデモンストレーションを目にすることで、聴導犬・介助犬がいることでいかに生活が楽になることか氷塊しました。車椅子でかがむことが困難でも、落とした物を拾ってくれたり、リモコンや新聞をとってきてくれたりすること。音が聞こえなくても目覚ましの音やインターホンを知らせてくれること。災害時の避難等の呼びかけでも犬たちがいないと、どれだけ不安になるか。限られた時間の中でいろんな可能性が頭をめぐりました。

そしてなにより、聴導犬に出会うことで、障がいにも様々なあることに気づけたことは貴重でした。日ごろどのような声掛けやサポートができるのか、イメージできたようにも思います。是非この様な普及活動は様々な場所で続けていただきたいです。

コロナ前に、長野の本部に、養護学校の子供たちと共に見学に訪れる機会もありました。どのような環境で犬たちの信頼を勝ち取ってゆくか。一頭一頭の個性を見極めながらの育成、遊びながらの訓練、犬たちの仕事モードから休憩モードへの切り替えの早さなど、非常に勉強になりました。めったに犬に触れる機会のない子供たちの生き生きした表情がとても印象に残っています。



パピークラスでの社会化・ボランティア活動などのできるサポートを

最近では候補犬の社会化のお手伝いとして、関東パピークラスにも徐々に参加させていただくようになりました。また長野にもお邪魔したいと思います。ちょっとずつのできる形での支援になります。どうぞ今後ともよろしくお願ひします。

(2023年12月発行 日本聴導犬協会新聞46号より)